

第2学年 国語科学習指導略案

1組 計25人（男子13人，女子12人）
指導者 中野 嘉宣

1 単元 お話を、そうぞうしながら読もう
(教材「スーホの白い馬」光村図書2年下)

2 単元の目標

- 誰が、何をしたかという主語と述語の関係を理解するとともに、複合語の意味や働きについて捉え、想像したことを音読することができる。【知識及び技能(1)オ，カ，ク】
- 物語のあらすじを捉え、場面の様子と結び付けて登場人物の気持ちや行動の理由などについて想像を広げながら読み、登場人物同士のつながりに気付くことができる。【C読むこと(1)エ】
- 教材文と世界の昔話の絵本を楽しみながら読み、心に残ったところを中心に、紙芝居に想像したことをまとめて1年生に発表しようとする。【学びに向かう力，人間性等】

3 単元で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

問題発見力	あらすじを捉えた「スイミー」の学習や登場人物の行動等を想像した「お手紙」の学習を振り返り、教材文や絵本から「なぜ、登場人物はそのようなことをしたり言ったりしたのか。」という問いを見いだして学習課題を設定する力
論理的思考力	登場人物の行動や会話に着目して、「なぜ、登場人物はそのような行動をしたのか、どのような気持ちだったのか。」など行動の理由について想像しながら読み、場面の様子の移り変わりや登場人物同士のつながりを捉える力

4 単元について

(1) 単元の位置とねらい

これまでに子供は、教材「スイミー」で、物語のあらすじや場面の様子を捉え、自分の体験と結び付けて、絵本を読んだ感想をまとめる学習を経験してきた。また、「お手紙」で、場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら物語を読み、声の大きさや速さ、間の取り方などを工夫して音読劇をする学習に取り組んできた。

そこで、本単元では、「C読むこと イ読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする言語活動」として「世界の昔話の絵本を読み、登場人物の行動や会話について想像したことを紙芝居にまとめる言語活動」を位置付ける。具体的には、場面の様子と関係付けながら教材文の登場人物の気持ちや行動の理由などについて想像を広げたことを吹き出しカードにまとめ、紙芝居の台本に付け加えることで、登場人物や場面の様子について想像を広げたり、物語の構成や登場人物同士のつながり等の内容への理解を深めたりすることができるようにする。そして、教材文で学習したことを生かし、発表したい絵本が同じ子供同士でグループを作り、心に残った場面を中心に想像したことを紙芝居の台本にまとめ、生活科「山下祭り」で1年生に発表させることで、目的意識や相手意識をもって物語の内容等について理解したことを表現できるようにする。

この学習は、登場人物の行動や会話を自分の経験と比べながら読み、物語のあらすじを紹介する「わたしはおねえさん」の学習につながっていく。また、登場人物の行動に着目して場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読む活動は、今後の読書生活で生かすことができる。

(2) 子供の実態（調査人数：25人 調査日：令和元年8月21日）

知識及び技能	9割程度の子供は、「登場人物が何をしたのか」という主語と述語の関係を理解できるが、主語が直接書かれていない会話文等について前後の関係から主語を捉えたり、複合語の意味や働きについて捉えたりしている子供は少ない。
読むこと	7割程度の子供は、場面の様子や登場人物の行動や会話に着目して物語の内容を理解したり想像を広げたりできるが、叙述や場面の様子と関係付けながら登場人物同士のつながりを捉えている子供は少ない。
学びに向かう力，人間性等	8割程度の子供は、楽しみながら物語を読み、友達に感想を伝えたり本を紹介したりしている。紹介の相手としては、「1年生」，「親」，「学級の友達」を対象にしている子供が多く、紹介の目的としては、「想像したことをおもしろく伝えたいため」，「物語を読み聞かせしたいため」と設定している子供が多い。

5 指導に当たって

(1) 「自分の問い（自分のめあて）」をもたせる教師の手立て

「つかむ・見通す」過程では、教材文を読んだ感想を交流させ、スーホと白馬の気持ちや行動の理由、つながりについて疑問をもたせる。そして、教師が「ずうっと、ずうっと、大すきだよ」を想像を広げながら読み、考えたことをまとめた紙芝居を紹介することで、「自分が選んだ世界の昔話の絵本について紙芝居で発表したい。」という「自分の問い（自分のめあて）」をもたせる。

(2) 「学び合い」を活性化させる教師の手立て

「調べる」過程では、教材文の心に残ったところを中心に、スーホと白馬の行動や会話に着目して、各場面の様子やスーホと白馬の気持ち、行動の理由等について想像したことを一人で紙芝居の台本に付け加えさせる。その後、想像したことを基にグループや全体で交流させることで、スーホと白馬のつながりについて考えを広げたり深めたりさせる。

(3) 学びを振り返り、学びを価値付ける教師の手立て

「振り返る・生かす」過程では、教材文を通して学んだことを基に作成した紙芝居を発表した後、「分かったこと」，「できたこと」，「変わったこと」等の観点でノートに本単元の学びの振り返りを記述させる。「スーホや白馬のことが分かってうれしかった。」という振り返りに対して、「なぜ、スーホや白馬など登場人物のことがよく分かったのですか。」と尋ねることで、登場人物の気持ちや行動の理由などについて想像したことのよさや、登場人物同士のつながりに気付いたことのよさを価値付け、達成感や充実感を味わわせる。

6 指導・評価計画（全13時間）

【前単元「音読ぎきをしよう」で習得した概念的な知識】
 物語を読む時は、場面の様子や登場人物の行動と会話に着目して、誰が、どうしたのか登場人物の行動や会話を把握し【A】、主な出来事や結末を捉え【B】、その人物がどのような表情や口調、様子だったのか想像する【C】ことで、内容への理解が深まる。

過程(時)	見方・考え方	主な学習活動	知識の理解の質の高まり	教師の指導
つかむ・見通す(2)	登場人物の行動や会話・感想をもつ	1 世界の昔話の絵本についてブックトークをして、「スーホの白い馬」の絵本の読み聞かせを聞く。【A, B】	世界には、いろいろな絵本があるんだな。たくさんの絵本を読みたいな。	○ 「想像したことを紙芝居で伝えたい。」という意欲を高めるために、教師が作成した「ずうっと、ずっと、大好きだよ」の紙芝居を読み聞かせ、登場人物の行動等を想像して読み、それを紙芝居の台本に付け加えて表現することのおもしろさに気付かせる。 ◆ 世界の昔話の絵本を読み、想像したことを付け加えながら紙芝居で表現する学習に関心をもち、課題解決への意欲を高めている。 【主体的に学習に取り組む態度：話し合い】
		2 教材文を読んだ感想を交流した後、教師が作成した紙芝居の読み聞かせを聞き、単元の学習課題や学習計画について話し合う。【A, B, C】 物語を読んで想像したことを紙芝居にするために、大切なことは何だろうか。	物語の時や場所、結末などあらすじをしっかりと押さえて、登場人物のしたことや言ったことのわけを想像して、自分が気に入った世界の昔話の絵本について紙芝居を作るぞ。	○ 場面ごとの教材文を読ませて、想像したことを紙芝居の台本に一人で付け加えさせ、それをグループや全体で交流させた後、再度紙芝居の台本に書いた内容を見直させる。 ◆ 登場人物の行動の理由等について想像を広げて読み、それを紙芝居の台本に付け加えている。 【思考・判断・表現：紙芝居の台本、話し合い】
調べる(7)	登場人物の行動や会話、場面の様子・関係付けて考える	3 挿絵や全文シートを使い、教材文の登場人物やあらすじを捉える。【A, B, D】	物語に誰が出てきてどうなったか、話がどのように進んだのかが分かったぞ。	○ 場面ごとの教材文を読ませて、想像したことを紙芝居の台本に一人で付け加えさせ、それをグループや全体で交流させた後、再度紙芝居の台本に書いた内容を見直させる。 ◆ 登場人物の行動の理由等について想像を広げて読み、それを紙芝居の台本に付け加えている。 【思考・判断・表現：紙芝居の台本、話し合い】
		4～9 各場面のスーホや白馬の行動の理由等について話し合い、想像したことを紙芝居の台本に付け加える。【A～E】 ・ スーホと白馬が出会う ・ 白馬が羊を守る ・ 白馬が殿様に取り上げられる ・ 白馬が殿様から逃げ出す ・ 白馬がスーホの所に帰ってくる ・ スーホが馬頭琴を作る（本時）	スーホと白馬は、「なぜ、そのようなことをしたり言ったりしたのか」行動のわけを想像することで、スーホと白馬の心の強い結び付きに気付くことができたぞ。	○ 自分が発表したい絵本を選び、同じ絵本を選んだ友達とグループを作り、協力して紙芝居を作成させる。 ◆ 想像したことを付け加えた紙芝居の台本を相手に伝えるように音読している。 【知識・技能：紙芝居の発表】
深める(3)	考友え達をのり見直す・振り返る(1)	10・11 自分が紹介したい世界の昔話の絵本を選び、同じ絵本を選んだ友達と心に残った場面の紙芝居を作成する。【A～E】	教材文で学んだ「登場人物の気持ちや行動の理由を想像して読む」ことを生かして、友達と協力して紙芝居を作るぞ。	○ 自分が発表したい絵本を選び、同じ絵本を選んだ友達とグループを作り、協力して紙芝居を作成させる。 ◆ 想像したことを付け加えた紙芝居の台本を相手に伝えるように音読している。 【知識・技能：紙芝居の発表】
		12 紙芝居を仕上げ、発表の練習をする。【A～E】	登場人物のしたことや言ったことのわけに気を付けて想像を広げて読んだことで、登場人物同士のつながりが分かったぞ。山下祭りの発表でも生かしたいな。	○ 本単元で身に付いたことを「分かったこと」、「できたこと」等の観点で振り返らせ、登場人物の行動の理由等を想像して読むことのよさを価値付ける。
		13 絵本ごとのグループで作成した紙芝居の発表会を行い、本単元の学習を振り返り、本単元の学びを自覚し、新たな学習課題を見付ける。【D, E】		

【本単元で習得が期待される概念的な知識】
 物語を読む時は、登場人物がどうしてそのことをしたり言ったりしたのか理由を考え【D】、登場人物同士のつながりに気付く【E】ことで、登場人物や場面の様子について想像が広がり、物語の構成や内容への理解が深まる。

【次単元「じんぶつと自分をくらべて読もう」の学習や生活科「山下祭り」、今後の読書生活へ】

7 本 時 (9/13)

(1) 目 標

スーホと白馬の行動や会話に着目して、スーホと白馬の行動の理由やスーホが馬頭琴を作って弾く様子について想像を広げて読み、スーホと白馬の心のつながりを捉えて紙芝居の台本に付け加えることができる。

(2) 展 開

□ 教師の言葉掛け [] 子供の反応 [◆] 重点評価項目

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の指導
つかむ・見通す(7)	<p>1 前時の学習を想起し、本時の学習範囲を音読した後、学習内容について話し合う。</p> <p>前時は、白馬がスーホのところに帰ってきたわけを想像し、それを紙芝居に付け加えたな。</p> <p>本時は、スーホが白馬の体で馬頭琴を作った場面について考えよう。</p> <p>2 本時の学習課題から「自分の問い(自分のめあて)」を立てる。</p>	<p>○ 課題意識をもたせるために、「スーホが馬頭琴を弾く挿絵を提示し、「スーホはどんな思いで馬頭琴を弾いているか。」と発問してその場面を音読させ、「悲しい」、「白馬と一緒にうれしい」など友達との解釈の違いに気付かせ、本時の学習課題を設定する。</p>
調べる(8)	<p>スーホが馬頭琴を作って弾く場面は、どのように紙芝居で表現するとよいだろうか。</p> <p>3 スーホと白馬の行動や会話、スーホが馬頭琴を作って弾く様子について想像したことを紙芝居に一人でまとめる。</p> <p>4 想像したことを全体で交流し、スーホと白馬のつながりについて話し合う。</p> <p>[スーホ] 例「幾晩も眠れません」 ・ 白馬助けられずにごめんね。悲しい。 ・ 白馬がずっと頭から離れない。</p> <p>[白馬] 例「悲しまないでください」 ・ 苦しくても会いに来てよかった。 ・ スーホに早く元気になってほしい。</p> <p>スーホと白馬のつながり</p>	<p>○ 「どんな紙芝居の台本にすればよいか。」と尋ね、「白馬がスーホに楽器にするよう頼む文を想像して、白馬の思いが伝わる台本にしたい。」などの「自分の問い(自分のめあて)」をもたせる。</p> <p>○ 想像したことを可視化できるように、スーホや白馬の行動や会話に着目して、「行動の理由」や「自分だったらどうするか」などの観点で想像したことを吹き出しカード等にかかせ、紙芝居の台本に付け加えさせる。</p> <p>○ 各自の考えを全体で共有するために、白馬が夢に出てきた場面とスーホが馬頭琴を弾く場面について考えたことの共通点や相違点を交流させる。その際、想像したことの根拠や理由を尋ねる。</p>
深める(20)	<p>[二人の関係性]</p> <p>「スーホは、どこへ行くときも、この馬頭琴をもっていきました。」等の文から、スーホと白馬が互いに大好きだったことが分かるな。</p> <p>5 全体で見いだした「新たな問い」について一人で考えをまとめ、全体で話し合う。</p> <p>スーホは白馬で作った馬頭琴を弾いているとき、「悲しい」、「うれしい」どちらなのかな。</p> <p>スーホはうれしいと思います。「どこへ行くときも」という文から、白馬といつまでも一緒にいたいことが分かるからです。</p> <p>場面の様子やスーホの行動とを結び付けて、二人の心のつながりを想像することができたね。</p>	<p>○ 「なぜ、楽器の音は聞く人の心を揺り動かすのか。」と発問し、スーホと白馬の心のつながりを捉えさせる。</p> <p>○ 再度「スーホはどんな思いで馬頭琴を弾いているか。」と尋ね、導入時との解釈の違いに気付かせる。そして、スーホと白馬の行動等について想像したことを比較させることで、「スーホは馬頭琴を弾いているとき、『悲しい』、『うれしい』どちらの気持ちなのかな。」という「新たな問い」を見いださせる。</p>
生振りかき返す(10)	<p>6 本時の学習を振り返り紙芝居をまとめ、学びを自覚する。</p> <p>スーホと白馬の深い心のつながりが伝わるような紙芝居にするとよい。</p> <p>本時の学習を生かして、二人の心のつながりが分かる紙芝居になっているか見直してみましょう。</p> <p>「スーホは、自分のすぐわきに白馬がいるような気がしました。」の文に、「ずっと白馬と一緒に大好きだよ。」の吹き出しを付け加えて、スーホと白馬の心のつながりが分かるようにしたよ。</p>	<p>◆ 馬頭琴を弾いているスーホの気持ちを想像し、スーホと白馬のつながりを捉えている。</p> <p>【思考・判断・表現：「学び合い」、紙芝居の台本】</p> <p>○ 本時の学習を生かして紙芝居の台本を削除・修正させた後、見直した箇所を発表させ、「なぜ見直したのか。」その理由を問うことで、「スーホのしたことに着目して、スーホの行動の理由を詳しく想像することができたね。」等働かせた「言葉による見方・考え方」のよさを価値付ける。</p>

「自分の問い(自分のめあて)」

「学び合い」の活性化

学びの振り返りと価値付け